

日本初といわれるバスケットボール専門誌であり、全14号を揃えて入手することが困難なことから、スポーツ学部・学科、体育大学図書館には、ぜひとも永久コレクションしていただきたい貴重資料！

[電子書籍][オンデマンド書籍]

薬師寺尊正編 籠球専門月刊雑誌 **バスケットボール**

復刻版

矢野裕介(愛知淑徳大学教授) 企画・責任編集  
 谷釜尋徳(東洋大学教授) 解説  
 渡邊誠(NPO 法人日本バスケットボール振興会理事長) 推薦



クレス出版

薬師寺尊正編 籠球専門月刊雑誌バスケットボール 復刻版 [2024年11月30日配信]

電子書籍価格 同時アクセス1 ▼同時アクセス3 の価格は紀伊國屋書店、弊社へお問合せ下さい

全14巻(昭和5年8月1日~6年9月1日)	123,200円(112,000円+税10%)	ISBN978-4-86670-135-6
▼電子書籍のみ分売可		
第1巻(創刊号 昭和5年8月1日)	8,800円(8,000円+税10%)	ISBN978-4-86670-136-3
第2巻(第1巻9月号 昭和5年9月1日)	8,800円(8,000円+税10%)	ISBN978-4-86670-137-0
第3巻(第1巻10月号 昭和5年10月1日)	8,800円(8,000円+税10%)	ISBN978-4-86670-138-7
第4巻(第1巻11月号 昭和5年11月1日)	8,800円(8,000円+税10%)	ISBN978-4-86670-139-4
第5巻(第1巻12月号 昭和5年12月1日)	8,800円(8,000円+税10%)	ISBN978-4-86670-140-0
第6巻(第2巻1月号 昭和6年1月1日)	8,800円(8,000円+税10%)	ISBN978-4-86670-141-7
第7巻(第2巻2月号 昭和6年2月1日)	8,800円(8,000円+税10%)	ISBN978-4-86670-142-4
第8巻(第2巻3月号 昭和6年3月1日)	8,800円(8,000円+税10%)	ISBN978-4-86670-143-1
第9巻(第2巻4月号 昭和6年4月1日)	8,800円(8,000円+税10%)	ISBN978-4-86670-144-8
第10巻(第2巻5月号 昭和6年5月1日)	8,800円(8,000円+税10%)	ISBN978-4-86670-145-5
第11巻(第2巻6月号 昭和6年6月1日)	8,800円(8,000円+税10%)	ISBN978-4-86670-146-2
第12巻(第2巻7月号 昭和6年7月1日)	8,800円(8,000円+税10%)	ISBN978-4-86670-147-9
第13巻(第2巻8月号 昭和6年8月1日)	8,800円(8,000円+税10%)	ISBN978-4-86670-148-6
第14巻(第2巻9月号 昭和6年9月1日)	8,800円(8,000円+税10%)	ISBN978-4-86670-149-3

オンデマンド書籍価格 ▼完全受注制で納期は2週間から1か月かかります

第1巻(第1巻~第7巻)	61,600円(56,000円+税10%)	ISBN978-4-86670-150-9
第2巻(第8巻~第14巻)	61,600円(56,000円+税10%)	ISBN978-4-86670-151-6



好評既刊書 クレスの民和文庫研究会編 永久コレクション シリーズ

体育・スポーツ書集成 全IV回 民和文庫研究会編 企画・編集責任者 中村民雄、石井隆憲

第I回 戦後保健体育指導書 全7巻	揃 102,850円(93,500円+税10%)	ISBN978-4-87733-983-8
第II回 戦後学校武道指導書 全5巻	揃 73,150円(66,500円+税10%)	ISBN978-4-87733-989-0
第III回 国民体力向上関係書 全8巻	揃 119,680円(108,800円+税10%)	ISBN978-4-86670-020-5
第IV回 明治期体操学校 体育・体操書 全6巻	揃 105,600円(96,000円+税10%)	ISBN978-4-86670-027-4

格闘術・柔術柔道書集成 全III回 民和文庫研究会編 企画・編集責任者 中村民雄、石井隆憲

第I回 明治期の逮捕術・柔術柔道書 全6巻	揃 115,500円(105,000円+税10%)	ISBN978-4-86670-043-4
第II回 大正期の護身術・柔術柔道書 全7巻	揃 136,400円(124,000円+税10%)	ISBN978-4-86670-051-9
第III回 昭和<戦前期>の格闘術・柔道書 全8巻	揃 168,300円(153,000円+税10%)	ISBN948-4-86670-082-3



〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 ヌローナ日本橋704  
 ☎ 03-3808-1821 (FAX) 03-3808-1822  
 (mail) m-shibata@kress-jp.com 株式会社クレス出版



●●●● 本誌の特色 ●●●●

競技の全国的普及を意図した地方情報の発信

**記事**  
地方籠球界便り／全日本籠球選手権大会観戦記

**地方籠球界便り**

● 関西籠球界展望 ● 尾崎金太郎

● 女子スポーツの視点 ● 女子籠球エキシビジョン競技／女子籠球指導に関する私見

国際競技力向上を意図した国際大会の情報発信

**記事**  
国際オリンピック大会と籠球参加の問題／極東籠球選手権大会

**国際オリンピック大会と籠球参加の問題**

● 谷金尋徳 一解説より ●

● 米国ルール改正情報 ● 籠球1930-31年規則／籠球新規則

女子スポーツの視点

**記事**  
女子籠球エキシビジョン競技／女子籠球指導に関する私見

**女子籠球指導に関する私見**

● 小林龍二郎 ●

● ルーネンツクスバ ●

米国のルール改正情報

**記事**  
籠球1930-31年規則／籠球新規則

**籠球一九三〇—三一年規則**

● 田中寛次郎 ●

ここに復刊する籠球専門月刊雑誌「バスケットボール」(以下「本誌」)は、薬師寺尊正(一八九三—一九八五)が一九三〇年八月から一九三一年九月まで計一四号を発行したバスケットボールの月刊誌である。『体育・スポーツ書解題』(木下秀明編著)をみると、本誌よりも前に日本バスケットボール雑誌の刊行記録はない。大日本バスケットボール協会の機関誌「籠球」(一九三二—)や松本幸雄の「籠球研究」(一九三二—)の創刊は本誌よりも後であった。本誌にわが国初のバスケットボール専門誌としての地位を与えることができそうである。

バスケ母国・米国の最新知見の翻訳

**記事**  
コーチ及び競技者のための籠球競技法／米国籠球界攻防モダン戦法

**バスケ母国・米国の最新知見の翻訳**

● 田中寛次郎 ●

● 谷金尋徳 一解説より ●

日本のバスケットボール黎明期における薬師寺尊正の功績

NPO 法人日本バスケットボール振興会 渡邊 誠

アメリカ・スプリングフィールドのYMCA体育学校を卒業した大森兵蔵は、1908(明治41)年帰国後、東京YMCAの体育部主事に就任、バスケットボール競技を東京YMCAに紹介・指導した。この時期に、キリスト教系女学校などでもバスケットボールの対抗戦などが行われていたが、その後、この競技が全国に普及し定着することはなかった。1913(大正2)年にF.H.ブラウンは、日本YMCA同盟の要請に応じて来日し、17年間在日し、全国のYMCAの活動に携わり、日本のスポーツ界の発展と国際化に尽力している。翌年、日本で初めての国際大会であった第三回極東選手権競技大会が開催され、日本にバスケットボール競技が普及し定着する道へと進む契機となった。日本にバスケットボールの競技が紹介されてから全国の統一的組織である「大日本バスケットボール協会」が創設される1930(昭和5)年9月までに20年間を要している。「日本のバスケットボールの黎明期」に相当する時期に東京YMCAを基盤にした薬師寺尊正の活動は、その中心的な役割を果たしている。

1930(昭和5)年8月に発刊された籠球専門月刊雑誌「バスケットボール」の発行人薬師寺は、創刊号の中で「私は過去一五年間只管に籠球の発達を祈り乍ら微力を尽くしてきた」と語っている。15年前の1915(大正4)年頃は、薬師寺は東京帝国大学法学部の現役の学生だったと考えられる。翌年の1916(大正5)年に本郷追分に東京帝大YMCAの体育館が完成、1917(大正6)年春にこの体育館で、東京YMCAのブラウンがレフェリーを行い横浜YMCAチームと在日中国人チームの試合が行われている。(横浜YMCAチームが大敗)同年5月には、第三回極東選手権競技大会の代表チーム「京都YMCA」は、大日本体育協会のバスケット・ヴァレーボール委員長の近藤茂吉に引率され、東京帝大YMCA体育館に案内され、学生で埋まった階上の見物席の中で練習を行い、大学の有志を交えて練習試合を行っている。この時期には「帝大YMCAチーム」としてバスケットボールを楽しんでいたことも想定される。その後、ブラウンは「帝大YMCAチーム」を指導、その年11月に旧東京YMCAの体育館が竣工し、その活動の場所が「東京YMCAの体育館に移ったため「東京YMCAチーム」にチーム名を変更している。

薬師寺は、1917(大正6)年から1923(大正12)年まで、東京YMCAチームの選手として活躍。1919(大正8)年第四回極東選手権競技大会(マニラ)に日本は不参加であったが、1921(大正10)年5月に上海で第五回極東選手権大会が開催され、代表チームは「東京YMCA」11月には、大日本体育協会の主催した第一回全日本選手権大会で「東京YMCA」が優勝した。

薬師寺は、「バスケットボール競技についての自身の知見を広める」ことにも努力している。1922(大正11)年には、薬師寺訳による「1922-1923年新規則」を発行し、同年、発刊された大日本体育協会の機関誌「アスレックス」の第一巻第一二号から第八巻第五号まで「バスケットとヴァレーボールの競技の紹介」「技術について」「将来の展望」など多岐にわたる主題で17稿を投稿。1924(大正13)年「極東大会出場資格を得て」「バスケットボール私事」を主題に「アサヒスポーツ」(大阪朝日新聞社)へ投稿している。

1923(大正12)年の5月に第六回極東選手権大会(大阪)が開催され、この大会の代表チームは、「東京YMCAと立教大学の選手の混成チーム」当時、東京YMCA体育館があった神田地区は多くの大学があり、大学生がトレーニングの場として徐々に活用するようになっていた。第一回全国バスケットボール大会を報知新聞社の後援で東京YMCAが主催している。この年の9月に「関東大震災」が発生し、旧東京YMCA会館と体育館が焼失し活動場所を失った東京YMCAチームの活動も解散することとなる。薬師寺は、震災後も東京YMCA主催の大会を開催し、YMCA主導のバスケットボールの組織化を計っている。

1924(大正14)年10月に薬師寺は、大日本体育協会主事に就任。大日本体育協会は、その一部会として極東選手権競技大会・全日本選手権大会・明治神宮競技大会などの大会を主催していたが、さらにバスケットボール競技の普及・発展をもたらすためには大学生が中心になって進めなければ将来の発展を望めないと考えていて、1930(昭和5)年東京で開催された第九回極東選手権競技大会のは、関東大学バスケットボール連盟の役員などが中心となり大会の運営を進め、その後「大日本バスケットボール協会」が誕生した。

当時、大日本体育協会の事務局に務めていた薬師寺は、第九回極東選手権競技大会終了後、本人の都合で名誉主事を辞任。1913(大正2)年に来日し、17年間在日した東京YMCAのブラウンは、日本スポーツ界の国際化を進め各種競技の普及の道を切り拓いた「日本スポーツ界の恩人」であり、大森兵蔵がバスケットボール競技を紹介しブラウンが普及に努めたことになり、東京YMCAを基盤にした薬師寺の15年間はブラウンの活動と一体であった。

東京YMCAチームの選手時代から大日本体育協会の事務局に勤務した時代を通し「バスケットボール競技の普及」に努めた薬師寺は、その中心的存在であった。第九回極東選手権競技大会終了後に、F.H.ブラウンが離日し「東京YMCAの時代の終焉」となった。

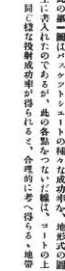
東京YMCAを基盤に日本のバスケットボール界の「黎明期」(新しい時代や文化などが始まろうとする時期や夜明けにあたる時期)に「只管籠球の発達を祈りながら微力を尽くした15年間」の功績は忘れてはいけない。籠球専門月刊雑誌「バスケットボール」14巻に書かれている内容は、薬師寺の「凝縮された最後の思い」を知ることができる貴重な資料である。



国際オリンピック大会と籠球参加の問題



籠球一九三〇—三一年規則



第一回全日本選手権大会の戦況